

ICU・Post ICU栄養 の最前線

—ひろがる重症患者の栄養管理

——特集にあたって——

重症患者における栄養管理の重要性は、ICU(集中治療室)内に留まらず、ICU退室後(Post ICU)まで広がりを見せています。PICS(post-intensive care syndrome)やICU-AW(ICU-acquired weakness)といったICUでの治療後に生じる身体的・精神的な合併症への介入と継続的なアプローチの重要性が注目される中、ICU入室中から退室後に至るまで多職種が連携して包括的な栄養管理を実施することで、急性期の生存率向上だけでなく回復期における機能改善や合併症予防にも寄与し、患者のQOL(生活の質)の向上が期待されています。

本特集では、ICUおよびPost ICU期における最新の栄養管理の動向を整理し、実践的なアプローチについて紹介します。小児重症患者への栄養管理、ICU内でのリハビリテーション栄養の実践、ICU退室後の栄養管理と病棟間連携の重要性など、各領域の専門家による解説を通じて、管理栄養士が果たすべき役割を深く掘り下げていきます。さらに、重症患者の栄養アセスメントのための間接熱量測定、筋萎縮予防のための評価と介入、ICU治療後のPICS外来におけるフォローアップなど、最新のトピックも取り上げます。本特集がより効果的な栄養管理の実践につながり、重症患者の回復を支える一助となりますと幸いです。

(編集部)

企画協力：宮城朋果/横浜市立大学大学院 医学研究科修士課程 医科学専攻生体制御・麻酔科学